

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年1月26日

上場会社名 株式会社 田谷

上場取引所 東

コード番号 4679 URL <http://www.taya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田谷 和正

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼専務執行役員経営企画推進室長 (氏名) 田代 久士

TEL 03-5772-8411

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	9,532	△3.4	△36	—	△31	—	△166	—
21年3月期第3四半期	9,866	—	291	—	299	—	175	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△33.00	—
21年3月期第3四半期	34.74	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	8,768	4,566	52.1	903.07
21年3月期	8,772	4,845	55.2	958.07

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 4,566百万円 21年3月期 4,845百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	22.00	22.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期 (予想)				22.00	22.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,640	△2.8	△229	—	△233	—	△324	—	△64.09

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注)詳細は4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 5,100,000株 21年3月期 5,100,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 42,840株 21年3月期 42,731株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 22年3月期第3四半期 5,057,219株 21年3月期第3四半期 5,057,439株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想につきましては、平成21年10月28日公表の第2四半期決算短信の業績予想数値から変更はありません。

2. 上記の予想は、本資料の発表日現在における入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策等により緩やかに持ち直していると言われているものの、下期の円高・株安の影響やデフレ長期化による景気の二番底懸念も広まり、また個人消費の低調も続き、依然厳しい状況で推移いたしました。

美容業界におきましても、厳しい雇用・所得環境が続く中、消費者の生活防衛意識や節約志向により、引き続き厳しい経営環境が続いてまいりました。

このような状況の下、当社といたしましては、「約束」を今年のテーマとし、美容師として髪のプロとして、お客様一人ひとりのニーズに応え満足していただけることを「お約束」し、お客様の信頼を獲得し積み上げることに、業績の回復に努めてまいりました。また、若い美容師の早期育成を図る為の特別教育プログラム「TAYAアカデミー」も今年4月に開講するなど、技術・接客の向上に向けた社員教育に取り組んでまいりました。さらに今年度は、「創業45周年キャンペーン」を展開し、お客様に日頃の感謝を込めて特別価格での施術の提供を行っております。

店舗といたしましては、美容室5店舗（TAYA 麴町店、TAYA 天神店、Shampoo 綱島店、TAYA 二子玉川店、TAYA 尼崎店）の新規出店を行い、一方で近隣店舗への統合の為、美容室4店舗（TAYA blue label イオン熱田SC店、TAYA 天神コア店、TAYA 博多リバレイン店、Shampoo 岐阜リバーサイドモール店）を閉鎖し、スクラップ&ビルドによる収益基盤の強化も図ってまいりました。第3四半期累計期間末の美容室数は、145店舗と前期末と比べ1店舗増加しております。

しかしながら、個人の消費マインドの冷え込みは客足や客単価に影響し、既存店ベースでの入客数は前年同期比1.6%減、客単価は同2.7%減となり、既存店売上高は前年同期比4.3%減となりました。

以上の結果、当社の第3四半期累計期間の業績は、売上高9,532百万円（前年同期比3.4%減）となり、美容師確保による人件費の増加もあり、営業損失36百万円（前年同期は営業利益291百万円）、経常損失31百万円（前年同期は経常利益299百万円）となり、また、創業者の取締役退任に伴う退職慰労金50百万円や減損損失30百万円等を特別損失に計上し、四半期純損失は166百万円（前年同期は純利益175百万円）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の総資産は8,768百万円となり、前事業年度末と比べて3百万円減少いたしました。

流動資産の残高は2,605百万円となり、前事業年度末と比べて21百万円減少いたしました。固定資産の残高は6,162百万円となり、前事業年度末と比べて17百万円増加いたしました。主な増加は売掛金71百万円であり、主な減少は、現金及び預金の142百万円であります。

当第3四半期末の負債総額は4,201百万円となり、前事業年度末と比べて274百万円増加いたしました。

流動負債の残高は2,498百万円となり、前事業年度末と比べて11百万円減少いたしました。固定負債の残高は1,703百万円となり、前事業年度末と比べて286百万円増加いたしました。主な増加は、短期借入金203百万円、長期借入金201百万円及び社債110百万円であり、主な減少は、税金の支払いによる未払法人税等159百万円及び賞与引当金107百万円であります。

当第3四半期末の純資産は4,566百万円となり、前事業年度末278百万円減少いたしました。以上の結果、自己資本比率は前事業年度末55.2%から52.1%に減少いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物は（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ65百万円減少し、1,351百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期累計期間において、営業活動の結果支出した資金は65百万円（前年同期は364百万円の獲得）となりました。

これは主に、税引前四半期純損失155百万円に対して、減価償却費189百万円、減損損失30百万円、仕入債務の増加額34百万円及び固定資産除却損23百万円があったものの、賞与引当金の減少額107百万円、売上債権の増加額71百万円及び法人税の支払額194百万円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は365百万円（前年同期は312百万円の使用）となりました。

これは主に、定期預金の純減77百万円に対して、新規出店にともなう有形固定資産の取得426百万円並びに敷金及び保証金の純増7百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間において、財務活動の結果獲得した資金は365百万円（前年同期は28百万円の使用）となりました。

これは主に、長短借入金の純増405百万円（前年同期は188百万円の純増）及び社債の発行による収入200百万円に対して、社債の償還90百万円及び配当金の支払額110百万円があったことによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。なお、平成22年3月期の通期の業績予想につきましては、平成21年10月28日公表の第2四半期決算短信の予想数値から変更はございません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はございません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はございません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,570,323	1,712,841
売掛金	610,301	539,254
商品	46,494	43,110
美容材料	34,528	36,992
その他	345,628	296,620
貸倒引当金	△1,295	△1,528
流動資産合計	2,605,980	2,627,292
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,938,892	1,936,081
土地	1,377,828	1,377,828
その他(純額)	93,598	84,213
有形固定資産合計	3,410,320	3,398,124
無形固定資産	45,936	31,941
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,163,508	2,166,628
その他	554,767	559,972
貸倒引当金	△11,724	△11,733
投資その他の資産合計	2,706,551	2,714,867
固定資産合計	6,162,807	6,144,933
資産合計	8,768,788	8,772,225

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	467,039	432,172
短期借入金	343,500	139,700
1年内返済予定の長期借入金	414,038	400,492
1年内償還予定の社債	106,000	130,000
未払費用	633,978	518,785
未払法人税等	33,461	193,202
賞与引当金	114,863	222,450
その他	385,884	473,400
流動負債合計	2,498,766	2,510,202
固定負債		
社債	134,000	—
長期借入金	1,001,393	813,377
退職給付引当金	322,685	299,801
その他	244,976	303,645
固定負債合計	1,703,054	1,416,824
負債合計	4,201,821	3,927,027
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,480,180	1,480,180
資本剰余金	1,702,245	1,702,245
利益剰余金	1,503,160	1,781,316
自己株式	△118,618	△118,543
株主資本合計	4,566,967	4,845,198
純資産合計	4,566,967	4,845,198
負債純資産合計	8,768,788	8,772,225

(2) 四半期損益計算書
 (第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	9,866,104	9,532,682
売上原価	8,430,255	8,431,220
売上総利益	1,435,848	1,101,461
販売費及び一般管理費	1,143,935	1,137,485
営業利益又は営業損失(△)	291,913	△36,024
営業外収益		
受取利息	5,174	3,524
不動産賃貸料	11,269	10,435
その他	26,865	29,763
営業外収益合計	43,309	43,724
営業外費用		
支払利息	22,533	26,210
不動産賃貸費用	6,418	6,151
社債発行費	—	3,917
その他	6,597	2,827
営業外費用合計	35,549	39,106
経常利益又は経常損失(△)	299,673	△31,406
特別利益		
休業補償金	49,156	—
退店補償金	82,909	—
受取保険金	7,805	—
会員権償還益	—	3,755
貸倒引当金戻入額	1	242
特別利益合計	139,871	3,997
特別損失		
前期損益修正損	4,055	—
固定資産除却損	29,681	47,198
減損損失	7,759	30,905
役員退職慰労金	—	50,000
その他	1,986	—
特別損失合計	43,482	128,103
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	396,062	△155,513
法人税、住民税及び事業税	192,855	45,069
法人税等調整額	27,501	△33,687
法人税等合計	220,356	11,382
四半期純利益又は四半期純損失(△)	175,705	△166,896

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	396,062	△155,513
減価償却費	167,026	189,908
減損損失	7,759	30,905
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△64,232	△107,586
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	15,360	22,883
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△242
受取利息	△5,174	△3,524
支払利息	22,533	26,210
固定資産除却損	29,681	23,473
休業補償金	△49,156	—
退店補償金	△82,909	—
受取保険金	△7,805	—
会員権償還益	—	△3,755
役員退職慰労金	—	50,000
売上債権の増減額 (△は増加)	△80,812	△71,047
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,638	5,628
仕入債務の増減額 (△は減少)	110,639	34,866
その他	92,328	157,019
小計	539,662	199,227
利息の受取額	3,767	4,439
利息の支払額	△21,256	△24,710
退店補償金の受取額	82,909	—
保険金の受取額	42,673	—
役員退職慰労金の支払額	—	△50,000
法人税等の支払額	△283,062	△194,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	364,693	△65,136

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△793,930	△697,962
定期預金の払戻による収入	626,052	775,434
有形固定資産の取得による支出	△130,167	△426,679
敷金及び保証金の差入による支出	△59,941	△43,820
敷金及び保証金の回収による収入	52,511	35,925
会員権の償還による収入	—	3,800
その他	△6,717	△11,862
投資活動によるキャッシュ・フロー	△312,191	△365,164
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	670,000	939,000
短期借入金の返済による支出	△491,300	△735,200
長期借入れによる収入	255,000	487,000
長期借入金の返済による支出	△245,671	△285,438
長期未払金の返済による支出	△10,896	△23,479
リース債務の返済による支出	△4,274	△15,812
社債の発行による収入	—	200,000
社債の償還による支出	△90,000	△90,000
自己株式の取得による支出	—	△75
配当金の支払額	△111,131	△110,600
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,273	365,393
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△138
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	24,228	△65,046
現金及び現金同等物の期首残高	1,190,095	1,416,771
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,214,323	1,351,725

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。